

【大人達よ、大志を抱け】

【少子高齢化の歪?】

「資格はないですが、子供が大好き!」「まだ経験も無いため、時給五百円とさせて頂きます」。ベビーシッターと子供を預けたい親をつなぐマッチング(仲介)サイトの掲示板には、シッター登録者の自己紹介文が並ぶ。保育可能な地域のほか、「希望時給」などの項目も目立つ。気に入らぬなどとする記載が目立つ。気に入ったシッターが見つければ、サイトを通じて連絡し、最終的な料金などは両方で話し合っただけというシステムだそう。

少子高齢化の歪なのでしょか? 共働きの若夫婦が増えた背景には、子育てに苦心する親御さんの姿が見え隠れする。

先月十六日、現代社会ならでは信じられない事件が発生した。

埼玉県富士宮市で二歳の山田龍琥(りく)ちゃんが、自称・保育士を名乗る物袋勇治(もってゆうじ)容疑者(二六歳)の自宅マンションで遺体となって発見された事件。司法解剖の結果、死因は窒息死とみられ、

唇と鼻のあたりがただれていたという。また、物袋容疑者は預かった龍琥君や、生後八か月の弟に食事を少ししか与えず、ほとんど世話をした形跡がない。

更に警察に発見された時、兄弟とも衣服を着ておらず、一緒に見つかった弟は低体温症で病院に運ばれたのだという。この事実について物袋容疑者は容疑を否認。「薬を飲んで昼過ぎに寝てしまい、翌朝起きたら龍琥ちゃんが死亡していた」という言い訳も、幼稚過ぎるような信じられない事件が多発する中、この事件を取り上げようと思ったのは、アメリカ発祥の「ベビーシッター」という日本ではあまり馴染みの無い職業が絡んだ珍しい事件だと思っただけ。

【玉石混濁】

ベビーシッターの日本事情を調べて愕然とした。仲介サイトは平成二十年ごろから増加し、登録者が一万五千人を超えるサイトもある現状。子供を預けたい親と、シッターをつなぐ仲介サイトは、本人確認が無のまま匿名で登録でき、シッターも依頼者も殆どが匿名というから驚く。「保育士」など資格に関する記載もあるが、嘘をつかれ

ば分からないというから、どこまでも信用でき兼ねる。電子メールや携帯電話などの連絡先のみで、住所なども分からないという杜撰さ。ベビーシッター派遣会社でつくる「全国保育サービス協会」(東京)によると、加盟各社の相場は都内では一時間二千円程度。

他に入会金や年会費がかかる場合もあるというから、これと比べればネットの登録シッター時給五百円は、確かに格安だ。親が自分で直接選ぶ以上、自己責任が占める割合は大きいとも言えそう。

お金が安いから?相手の顔も素性も知らない人間に、早々に大切な子供を預けることができるものなのか?「命」ってなんだろう?

この事件を受けて厚労省は、認可に当たっては研修の有無などの審査を行う予定で、虐待などの違反が見つければ、認可の取り消しも検討する方針だ。

だが、有償ボランティアのような善意のサービスを行うNPO団体などもあり、どこまで規制すべきなのか難しい問題も横たわっている。

【お国は違えど、同じ人間】

さて、「ベビーシッター」発祥の国アメリカでは(州によって詳細は異なるが)、

十二歳以下の子供だけで留守番させることは違法とされている。子供を産んだ夫婦は夫婦、子は子。ベビーシッターを雇って、夫婦二人でデイナーに出掛ける事も珍しくなく、両親が小さい子を預けて食事に行ったり、映画を見たり買い物に行ったりするのが当たり前。高校生のアルバイトとしてベビーシッターの募集も多い。高校生のアルバイトとして人気が高いのもアメリカならではで、日本では考えられない。また、高校生のベビーシッターは、学校の成績

としても評価の対象となっている為、社会奉仕の表が大学進学的重要な中で、ベビーシッターが増えるとも言える。そんな中で、大切なことを忘れてはいない。かつての日本が一番大切にしてきた地域社会・向こう三軒両隣などの言葉があるように、人間と人間との信頼と絆の部分。アメリカでベビーシッターを雇う時は、近所をよく知ってる人間(お付き合いがあり顔見知り)で、自分の子供を可愛がってくれている人間(信頼関係)とか、評判のいい近所の子供にお願ひする。いわば当たり前柄ばかりです。日本人の心はどこに

行ってしまったのか？

もう一つ嫌な事件です。岡山市北区の西中山下公園で、ベビーカーに乗っていた女兒（二歳）が近くにいた見知らぬ男に金属製のフォークで頭を刺され、三日間の軽いケガをした事件。一緒にいた母親が一一〇番し、駆けつけた警察官が、男を傷害で現行犯逮捕。住所不定、無職の岡本光弘容疑者（五七歳）は、「女兒に）ヤクザを見るような目つきで見られたので、フォークで刺すふりをした」と容疑を否認。動機も幼稚過ぎる。

小さい頃、子供達だけで日が暮れるまで遊んだ公園という公の場所は、いつしか『公園デビュー』という言葉と共に、敷居が高くなってしまった。加えて物騒な世の中、安心して外出すらできなくなってきた。古き良き日本人はどこに行ったのだらう？

【ホームレスとハウスレス】

奥田知志（おくだともし）さんをご存じだろうか？先月ご縁を頂いて名刺交換させていただいた。

奥田氏は、北九州を拠点に实际的なホームレス支援を続けて今年で二十年になる。

「ホームレス」とは誰のことだろうか？

多くの方は「野宿者」と答えるだろう。安定した住居がないことは就職を妨げ、様々な社会的手続き（年金や生活保護など）を不可能にする。野宿者が食料、衣料、医療などあらゆる面で物理的困窮状態に置かれていることは事実。奥田氏はこれを「ハウスレス状態」と呼んでいる。アパートを設定し、社会復帰させるだけなら「ハウスレスの克服」に過ぎないという。「彼らにとって何が必要か（居宅、衣服、食べ物）」と同時に、彼らにとつて「誰が必要か（心配してくれる誰か）」が重要な視点。

ハウスレスは経済的困窮を意味し、ホームレスは家族、友人の絆が切れた人々のこと（関係の困窮）を指すそうだ。「帰る場所が無い」「心配してくれる人がいない」…家庭崩壊、学級崩壊、地域社会の崩壊など関係が悉く崩壊する時代にあつて、家には住んでいるが（ハウスレスではない）が、ホームレス（関係を喪失している者）である人は、この社会には多く存在しているのではないかと示唆する。

【天花卒園式】

皆様のお蔭をもちまして、天花も無

事に幼稚園を卒園しました。そして四月からピカピカの一年生。大町幼稚園の卒園式では、PTA会長として次のような挨拶をした。

『「子供は親の言う通りには育たない、子供は親のする通りに育つ」というが、まさに至言だ。優しい子供に育つて欲しいなあと願えば、親自身が優しい人間になることだ。物を大切にすると子供に育つて欲しいなあと思えば、親自身が物を大切にすると、まさに親自身が成長しなければ、子供の成長も見込めない。親だけではない、社会的に大人という立場の人間は皆、肝に銘じなければならぬ命題だろう」と。祝辞にはそぐわないかもしれないが、大人社会が子供社会を構成するのは間違いないことだから、まずは大人が性根を入れ直さなければならぬと思う。

【まとめ】

ベビーシッター事件やフォーク事件など、社会を覆っている不穏な空気。信頼・正直・誠実さが馬鹿にされ、便利・効率・嘘が蔓延る社会。まずは自身自身を点検する事から始めたい。

合理性が招く事件事故。目的がお金持だけになった仕事や職業。そんな仕事場も地方の地元には求めず、創業も

考えず、都会一辺倒の右へ做え。不景気だの、政治や社会が悪いと文句は一丁前で努力もしない輩。人間関係の困窮している「ホームレス」状態にある平気な顔をした愛情や絆が枯渇してしまっている寂しい人々。いま改めて願うウイリアム・スミス・クラーク（クラーク博士）の『boys (olds) be ambitious』…少年（大人）よ大志を抱け。少年（大人）達よ大きな志を心の中に持て。夢を目標に持て。しかし、金を求める大志であつてはならない。利己心を求める大志であつてはならない。名声という、つかの間のものを求める大志であつてはならない。人間としてあるべき全てのものを、求める大志を抱きたまえ」と。

合掌 副任職 谷川寛敬

